

12 近世の度量衡

日本には古来ものを計測する方法として「尺貫法」がありました。これは中国伝来のですが、日本人の身体感覚に根ざした単位として変化しながら長く使われました。

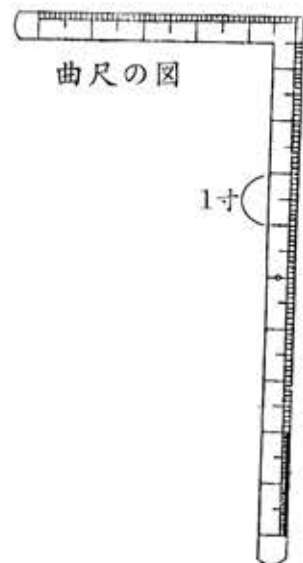
1959年以降、日本は世界水準のSI (Le Systeme International d'Unites) 基本単位法を法的に採用しましたが、現在も尺貫法は建築や慣習的なもののサイズなどに残っています。たとえば植木鉢の大きさは号数であらわされているが、号=寸であり、たとえば5号鉢は直径5寸であることを示しているのです。

以下の表は1889年(明治22)制定の度量衡法に基づいて作成した、江戸時代の尺貫法換算表です。ただし換算については、あくまで標準的なものにすぎません。

度
(長さ)

長さは曲尺(かねじゃく、建築用)・鯨尺(くじらじゃく、裁縫用)・検地竿(間竿)などの「ものさし」で計ります。1間(けん)はだいたい182cmで、昔の人は両手を広げて指先から指先までの長さをだいたい1間として長さを目測しました。日本建築の柱間は曲尺で1間であるなど、間は長さ重要な単位ですが、京間ではこれを曲尺の6尺5寸、中京間では6尺3寸、江戸間では5尺8寸、関東・東北・東海地方で使われた田舎間では6尺としたように、地域性があり、一定ではありません。

		尺貫単位	換算	尺貫単位間の関係
ものさしではかる	長さ(度)	1里	3.927km	1里=36町
		1町(丁)	109.09m	1町=60間
		1丈(じょう)	3.03m	1丈=10尺
		1間(けん)	1.818m	1間=6尺
		1尺(しゃく)	30.3cm@曲尺 37.88cm@鯨尺	1尺=10寸
		1寸	3.03cm	1寸=10分
		1分(ぶ)	3mm	1分=10厘
		1厘	0.3mm	1厘=10毛
		1毛	0.03mm	
		1尋(ひろ)	1.818m@6尺 1.515m@5尺	1尋=6尺or5尺
広さ	1町	99アール、ほぼ1ヘクタール	1町=10反(段)	
	1反(段)	9.9アール	1反(段)=10畝=300歩(坪)	
	1畝(せ)	0.9アール=99平方m	1畝=30歩(坪)	
	1歩(ぶ)=1坪	3.3058平方m	1歩=10厘=1間×1間	



間竿の図



間縄(けんなわ)を張って土地を測量する(「早引塵劫記」)

面積
(地積)

広さをあらわす面積で基礎となるのは1歩(坪)という単位です。1間四方の面積で、ほぼ畳2畳分に相当しました。歩は田畑林野、「坪」は家屋や敷地面積の表示に使用することが多いです。太閤検地以来、300歩が1反となりました。畿内では、所持地が3反から5反あれば農民として自立でき、1町以上の土地を所持する大百姓は、奉公人を多数雇って大規模経営を行うか、小作地として貸し出すといわれています。

